

硯合氏ノーベル賞

化学

自己触媒作用の発見

東京理科大名誉教授 医薬品開発などで活用



硯合憲三・東京理科大名誉教授

【ストックホルム共同】スウェーデンの王立科学アカデミーは7日、2026年のノーベル化学賞を硯合憲三・東京理科大名誉教授(76)とフランスの研究者の計2人に授与すると発表した。日本からのノーベル賞受賞は3年連続。

授賞理由は「不斉有機合成における非線形効果と自己触媒作用の発見」。医薬

品、香料、新素材などの製造に用いる反応で活用されている革新的な発見だとしている。

硯合さんは7日のアカデミーの記者会見で、電話に「人生で最もエキサイティングな日だ」と答えた。

アミノ酸は互いに鏡に映したような関係で、二つの異なる形が存在する。だが生物では、これらのうち一方しか存在しない。どうして対称でなくなるのかは長年の謎だったが、2人はこの謎を解く手掛かりを発見した。

日本の化学賞の受賞は、昨年の北川進京都大特別教授に続き2年連続で10人目。他の分野も含め、個人では計31人になった。団体では24年に日本原水爆被害者団体協議会(被団協)が平和賞を受賞している。

神戸新聞

NEXT



詳しくはこちら